

祐介の目



大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.20

毎月1日号に掲載

は「公務員が多すぎる」という批判も多いが、私はパートであっても司書を各学校に配置するべきと感じている。

また、多くの学校で文部科学省が要求する基準冊数は満たしているが、汚れて見栄えの悪い本や時代の変化により内容が古くなった本も多く、蔵書の新陳代謝がうまくいっていない。まるで古本屋状態の図書館がある反面、保護者らによる「図書ボランティア」の協力により、古い本を撤去して明るく開放的な図書館に衣替えをした学校もある。

学校図書館を考える

本を読み続けると人は人間として成長するようになっているのではないか、一冊の本との出会いが人生を決めるといふ事はよくあることだ。6年生の教科書を読むと、あの野口聡一さんも高校生の時に宇宙飛行士の本を読んで宇宙飛行士になりたいという思いを持ったとの記述があった。大塚敦がもしれないが、私は学校図書館の充実が将来的な福山市発展の大きな鍵を握ると考えている。

しかし、福山の小中学校には図書館司書は配置されておらず、図書館を管理する教員は忙しい上に権限も乏しく、十分に機能していないという話を聞いた。司書不在の図書館は、養護教員不在の保健室と同じと言えるのではないか。図書館司書がいれば、お勧めの本を紹介する「ブックトーク」等、子供達がより多くの本に触れるような様々な取り組みができるはずだ。世間で

蔵書のバーコード管理(電算化)や、NDC(日本の図書館における標準分類法)による分類が行われていない学校も多く、子供達が本を借りにくい一因となっている。今どき、万を超えるアイテムを紙のカードで管理している業界が他にあるだろうか? 南小学校や鷹取中学校では、図書ボランティアが大変な労力を費やして電算化に取り組み、貸出冊数の大幅増加という成果を挙げた。私もせめて電算化ソフト購入の予算は付けるよう議会で訴えている。

読者の皆様にも、ご自身の子供や孫の学校図書館を一度訪問されることをお勧めする。

独立
福山医
4月1
真IIが
創始し
管理診
等・保
今夏か
の完成
岩垣
岡山太
第一外
に入局
福山第
して修
来医長
歴任し
07年に
院長と
を支え
友田

友田